




介木川の水・水質を考えようワークショップ

取組開始時期	2021年4月	取組の カテゴリー	環境対策	応募部門 (○を付ける)		PF会員間連携部門	○	一般部門
1. 団体名	一般社団法人ClearWaterProject		2. 連携先の 団体	豊田市役所 環境保全課				
3. 取組 目的	水質汚染が懸念される地域住民向けに水と水質に係るワークショップを実施し意識改善を行う				4. 関連する ゴール			

5. 取組経緯

昨年度から連携先とは、小学校や地域団体向けの河川活動で連携。その発展型として、市内のとある地域でのワークショップによる住民意識改善を打診され快諾し実施。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

地域住民向けに水や水質に関するワークショップ実施。水質の生き物への影響を知るため、プロジェクトWETの手法を採用。小学生とともに河川での生き物調査も実施し生態系も学ぶ。

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

地域財産である河川の水質に着目。インフラ整備では片づけられない場合、住民の意識を改革するしかない。地域を守り残していく直接の対象者に向けてワークショップを実施、未来を担う子どもたちにも生き物調査を実施。住民が意識と行動を変えたとともに、地域に誇りを持つ内容にした。

ステークホルダーとの連携

豊田市役所はSDGs未来都市に認定されている。そのため、本事業もSDGsをかなり意識した内容と、取り組みとした。同時に、市としてのSDGs推進、達成を住民とともに、という市側の目的も果たすことができた。

モデル性・波及性

市としては初めての取り組みだが、同市内には同じような課題を持つ地域があり、今回の取り組みを横展開したいと評価を得たため、次年度以降の発展が期待できる。また、全国的にも同様課題を持つ地域には横展開ができる内容であり、モデル性と波及性は高い。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

- ・地域住民が地域を流れる川の現状を素直にとらえる良い機会となり、自分たちが子どもであった頃の川との違いを明確にすることができ、あの時の川には良かったという思いから、ワークショップを実施しても前向きに取り組んでくれる姿勢がみられて、市側からの評価が高かった
- ・地域住民とともに考えた「自分ができること」「地域ができること」の両者が、地域の寄り合いで発表されたり、回覧板で回ったり、地域全戸に情報が共有されることになり、問題を共有し、地域全体で解決していく、取り組んでいく姿勢が、地域住民側からの働きかけで生まれた
- ・プロジェクトWETの手法を取り入れてワークショップを実施、クリップを用いた生き物と水の関係性を知る内容は非常に評価が高かった。あの内容で、住民の心をつかみ、参加意欲が高まったと市側からは評価を受けたため、次年度以降も同市内でプロジェクトを展開していく予定。

